911.308
八
冬

分類番号 911.3
図書番号 2912
巻冊番号 104
聖和学園短期大学図書館

俳諧十萬發句集冬之部目録

冬之上

十月 初丁

初冬 三丁
芭蕉忌
十夜
初霜 十一
霜花
炉開 十五
木葉 十九

神無月
神留主
御命講
夷講 六丁
霜
初雪
冬構 十四
口切 十六
茶花

小六月 二丁
神送 四丁
御取越
初時雨 七丁
霜枯 十三丁
冬籠
寒
山茶花

小春
連广忌
玄猪 五丁
時雨
霜柱
冬籠
落葉 十七
帰花 十八

冬牡丹 六十一　葱 六十二　根深　生姜掘
暖鳥　鷹　狩　鷹野
冬鳥　玉子酒 六十三　納豆

冬之下

極月 六十四　師走　臘八　衣配
車納　藁喰　佛名會 六十五　寒入
寒雨　寒声　寒月　寒念佛 六十六
衾　紙衣 六十七　蒲團　足袋
頭巾　湯婆 六十八　皺　胼
寒菊　寒梅　冬椿 六十九　冬蠅
冬山　冬日 七十　冬田　節季候

煤掃　餅搗 七十一　歳暮 七十二　暦賣
古暦　拵賣　節分　豆打
年市　年忘　年用意 七十三　年木樵
年木　年尾　年越　行年
年宵　年一夜 七十四　惜年　年名殘
年別　年暮　大晦日　除夜
厄拂　掛取　岡見　春隣 七十五
春待　春近　年内立春　冬題不知

俳諧十萬發句集冬之部

洞海舍涼谷編

一具巻一具校合

十月

十月や紙子の乾く日の光　糸子女

十月や雁の形成る弧杏の木　大梅

十月を鶏の声ばかり暮るゝ　文洲

十月の雲ぬる雨の霧ふる形　茅井

十月や神の名を鶏の唱ひ云　芦帆

十月や年々武士の数ふる星　二丘

十月や日を交て降る時の雨　名牧　一甫

十月の白雨を寄せて乳意　松海

十月や人の移ふ姿の面影　川文

十月や徐福古の寄せ来る　葛松

十月や末摘の花の新しき　蕉五

十月の伊勢の海見る小舟　壺半

十月よ八百万神出つる日　南安

十月や祝詞の面の古寄　葬母

神無月

神無月旭松の寄来し　芭角

神無月の花活て見る神無月　文廣

神無月見ぬ世の人の紀神無月　東京　孫伯

一益

俳の為に俳諧の神無月　古峯

雁代に落る蕎麦や小六月　五城

手を出て雨降る雨や小六月　之圭

無沙汰の雨降る雨や小六月　子孫

梅の実に雨つゝ寒し小春日　二

百姓の雪来る雨や小春日　白紀

雪山の雪の日を小春日　雁美

一さゝ〳〵小春の日の雨　蕪水

陸地の雪降る雨や小春日　芭角

つゝ行の村木陰小春日　古之

秋篠もつゝ寄せ来る小春日　丟子

左琴
宇書
仝
不着
尚古
第拾一
仝
文光
古峯
川丈
旭丘

初冬

神留主

[illegible]

神送

[illegible]

連歌

[illegible]

芭蕉

[illegible]

御命講
御取越

乙員
葬母
五峰
仝
玄〻
仝
古琴
鹿古
孫若
久藏
巣乎

玄猪
十夜

多安
知機
大梅
雄嶺
川丈
羽人
万里
永茅
巣乎
重山
水蓮

五丈の寒折て四く十夜哉　芳荘
耳よりく十夜の北や旅労も　尺葉
素餘手てよ八日の変る十夜かな　田舞
星霜搖て眼さる十夜哉　吟鹿
養仏ゆけ十夜の新の種蒔　遊水
戊も去へ金山活す夫十夜かな　自呪
若人も方てゝ呼ゝ人十夜かな　只手
口茶の鐵ま世かる十夜かな　杜洋
海人の多札き焼て〃十夜哉　栄笑
十夜ます活花海〃きま実かな　玉葉
素鼻子まかの尺九十夜かな　素子

夷講

下の花の新鋳合十夜かな　竜珍
亀波
飴売よ古徳飾る十夜かな　一甫
本尊ひく寅も成る変十夜かな　仝
嵐活らり川や十夜の人のおく　鶯望
枯叶も枯木も匂ふ十夜哉　虚峯
橙来をそし人押かる十夜かな　斗圓
扇の宮札業算堂や夷講　古峯
夷箱積笑て藤る家哉　桂花
秋去り肉ま如誉る夷講　二洞
一吹皆金の息も夷講　不曲
桃汐
行灯の出隊とる文鳥主講　如孫

夷講

菜の花の蘂續合十枚ゝ形　条坡　光琴

始妻子百結飾る十枚ゑ恭　一甫

赤宮祝く寅ゑ脈る来る十粉ゐ　仝

嵐佐からり山や十粉の人のおもく　寓堂

枯針も枯木も向ふ十枚の舞　虚峯

捧来りて人押分る十枚々乱　斗園

麻の宮我萬葉塁や夷講　古峯

夷豫稜番ぐ疎る祭哉　雄荘

穂も文肉羹也登る夷講　二洞

一生治金の白髪もし夷講　不曲

神楼の古体と云文九豫　秋汲　迦鎮

永禄
雨芽
木目
曽尺
一寸
不上
芽身
皮之
出発
五吸
業太

初時雨

川丈
稲香
丈二
拙平
夫川
乙壱
雄桜
古橋
杜年
業脇
山桂

初時雨

[illegible]

川丈
稲香
丈二
[illegible]
東川
乙壱
雄桂
古徳
杜年
葉鶴
山種

ゆかしく松の風音や初しくれ　雲也
葉まきし木の葉ひらり初時雨　里竹
家居に松の緑や初しくれ　栗笑
所望て御しく茶に初時雨　幻芝
膝の鍋子さそふる手作りやはつ時雨　峰洋
舟出の袖濡らすはつしくれ　札自
掴て鶴を集る雲や初しくれ　木公
初しくれ花まく芋殿おと芋難作　自秀
松虫や咲音の庭ぞ初しくれ　想雲
うれ人の袖さそふれしくれ　田斎
しくるゝや池の底まて破れ笠　掃花

時雨

時の雨の景色伝りしくれ哉　棲海
山の山々神の寄りし時雨雲　蒼夫
游の兄雲ぞ戻りしての移り哉　秀竹
しくるゝやあとより一群時雨雲　雨竹
人の来ぬ日さへ日移の時雨哉　玉和久
時雨るゝや茶の花の香似るらす　赤羹
折らぬ垂ぬ見さらし小松しくれ　古寧
しくるゝや一日揃ひ　川丈
葉ず打て時雨て来るや口の口　三丁
行燈のしくれるや屋家の烟　旭立
時雨る松さへ時雨哉　楽人

四仙　二晶　貞雄　宇弘　万里　不曲　壱山　篠山　木田　古峯　易足

松井　公　時雄　勝次　久臧　義父　清女　無人　無妹　平逸

一時雨そそぎて後の空晴れ渡りて
月の光いとさやかなるに
大賣
雅用
庚寅
後海
黄谷
五風
乘流
文子
一具
茶碗
茶筅

時雨そそぎて初冬の人数を
宋の孔子を拝礼し時雨の
川面さゆる冬の夜の月
あらしふく霜の宮
木葉の町の木々も時雨て夕暮
四五信の芭蕉外は時雨
ものすごしと時雨の雲
あらしふく嵐中鶏の羽音
時雨ふる松よ鳥の声
時雨ふる山家の時雨
初冬の空と書る山家の時雨

屋
涼谷
仝
双二
秀茶
白秀
白上女
寺谷
稲香
荷乙
真笑

霜

初霜

第拾一　一甫

第拾一　全　一甫

第拾一　一甫

舟の雲古松うとも富嵐うな
不白の地初雪高くる雲秋水
生鮮の商や雲秋の樵うう
秋雲や粽よ五月く海の制
為も蓑を以ふく貧し雲の名
簾川の雲う海うく菜屋水
うしうと雲暗秋の舟泊水
雲の戸や秋子う紙のうけ雲
菊うる秋の街うや尾の雲
自の氏人戸を海る雲秋水
秋雲や生氏を焼て作家し

雲什　宗祇
松舎　西阜
菖松　蕉丘
万里　昌湖
雲堂　一甫
鄉巣

霜枯

霜ふうう生雲人秋雲屋の雲
高うけ〜地はまつ高〜雲の雲
雲雲や世河内雲車とう
秋四人の雲の雲雲く世う秋
世雲よ霜うう矢刻の橋の上
雲う程よ人雲雲うし茅の雲
雲の秋や雲の乳雲雲辻行橋
秋うや雲雲は茅の山屋雲家
雲枯の乳昌〜うる四舎水
かうう雲枯陸や雲水御
雲れや鳥の茅人けん木梨

家依

相雨　一甫
茶秋　鄉巣
深谷
乃子
宋山
古樓
去く
樓海
鳳毛

霜柱　霜花　初雪

霜柱や雀おとしよ寒る雀
霜柱やけさも見る義の帽
罠うけて雀一羽や霜柱　甲斐

松海
の降て
文傳
米月
有
有く
古翠
旭丘
羽人
蓑雨
松秀
雨黄

○十三

冬

霜柱や踏出る鶏のふ枝うち
霜柱やもの思ひ初る母
初雪の降出て来る人の
初雪や松の葉
初雪や舟を繋ぐ柴の上
初雪や梶の屋根も消ぬ
初雪や子供の名抜き
初雪や陽炉の義の薄霧
初雪や屋根ふきぬも雨の
初雪や屋根ふく傍ら
初雪や母の手作の

伯文
古翠
黄九
一慧
竹里
風光
竹子
夕山
雨戸
雨安
斗玉

冬

構

冬

籠

陳海
民懐
自雪
古翠
竹聲
懐海
宗谷
仝
素丸
大梅

一陽
自悦
梁笑
相雨
英山
越海
立雪
高堂
玉和
相人
棟々

炉開

万里
面芽
木目
高安
仝

夢
一尊
謝堂
曰人
一両
高安

等後

炉開

口切

寥

雑用
一瓶
竹美
桂寿安
宰智
五味
仝
大梅
一具
竹
手鉢

耕雪　羽人　葛松　蕙丘　不曲　居素　面陽　子之　竹之　市石

義

等谷　溪翁　方居　栢樹　杉自　梨園　藤蔭　戸山　茅盡　刈芝　戸山

答葉

葉庚
左壽
民陳
五峴
仝
芳蘿
古逢
翔白
荒古
棣く
二晶

不曲
永茶
葉平
面明
重山
雅來
樵海
茶徑
蕊樹
雅閑
湖

第拾

一　甫
仝　久藏
不姑
與蛙
面明
杜季
一具
一樽

鍬金
和琴
松竹
生姜
生実
竹木
素色
地角
古々
九琴

斗玉
不着
尚古
習俗
云く
仝

名板
一甫
蒙笠
節之
素志

秋蛍
云く
木公
太之
古川
文物
奈良
柳西
黄西
羽人
九来

茶花

山茶花

松舍
三丁
明湖
為吉
丁寧
心明
稽古
丈二
素丈
雨首
為吉

歸花

雨明
為人
大貴
子輪
荷了
芦帆
一甫
云く
芽治
桃花
為吉

世話人 東京 一市 乙員 仝 禾豪 尺葉 先達 豪民 鼠面 宋牙 素考 丁安

一 仝 一 梅 学班 子熟 四門 素く 清乎 栗笑 山笑 面女 芦帆

枇杷花

二位　宰相
文和　五位
公　三位
惟孝　禾木
南山　陶烟
一具

八ッ手花

紅葉散

曲竈の枇杷　枇杷の巻
枇杷　謝堂
蘆雁　一
掃部の巡　素丸
代俗　雅
枇杷の巻　志地
八ッ手　項谷
紅葉　秋堂
八ッ手　篠山
松秀
一雅

銀杏散
枯尾花

小ごゑや名もなくもちる銀杏　丸星
吉野にも一ツも散らん銀杏ちる　寄竹
代々の枝も重なる乾ちる銀杏ぶ　名村
梅桃よりもあかれて銀杏散　久蔵
銀杏ちる奥や志だく黄金粒　槙海
一斛なくなる銀杏のうへの枯尾花　来木
瀧川の音絶しや枯男花　大貫
小雀とぶ志げ葉りや枯尾花　丁知
一日も枯ぬ日はなし枯男花　一具
金の隣にも志るし枯尾花　一梅
中のあきに枯る夜しみある尾花哉　一萱

枯草

冬

天気よき日を枯野かな辰見かな　滄谷
秋家の神灯松なくや枯男花　竹可
動かぬも一風情して枯尾花　蘇了
枯てこそ月日の長き芒哉　桂秀
名残尾花の葉や冬の陽炎哉　思文
山のはをきえて枯る尾花哉　藤和
見るうちに人の名そのつ枯男花　寛里
獅子舞の道切志て枯尾花　五岷
枯ながら尾花はよしく日和かな　仝
四角ながら日和のうち男花哉　越後　乙雅
葉草の元気も茶く枯る事　来水

枯柳

玉和之
柳枯
文淵
玄賓
清水
五帝
仝
仝
赤蘇
文光
光朱

枯芦

仙
蘇西
篠山
西ノ安
十翁
寸石
雅美
丈二
尚古
玉峰
學宋

枯芦　枯芦の風に折れて形なき
枯芦や海に出て水の末
枯芦や海に出て水の末
枯芦や海に出て水の末
枯芦や海に出て水の末
枯芦や海に出て水の末
枯芦や海に出て水の末
枯芦や海に出て水の末
枯芦や海に出て水の末
枯芦や海に出て水の末
枯芦や海に出て水の末

枯芒　枯芦や海に出て水の末
枯芦や海に出て水の末
枯芦や海に出て水の末
枯芦や海に出て水の末
枯芦や海に出て水の末
枯芦や海に出て水の末
枯芦や海に出て水の末
枯芦や海に出て水の末
枯芦や海に出て水の末
枯芦や海に出て水の末

枯蘇　枯芦や海に出て水の末
枯芦や海に出て水の末
枯芦や海に出て水の末
枯芦や海に出て水の末
枯芦や海に出て水の末
枯芦や海に出て水の末
枯芦や海に出て水の末
枯芦や海に出て水の末
枯芦や海に出て水の末
枯芦や海に出て水の末

枯葎　枯芦や海に出て水の末
枯芦や海に出て水の末
枯芦や海に出て水の末
枯芦や海に出て水の末
枯芦や海に出て水の末
枯芦や海に出て水の末
枯芦や海に出て水の末
枯芦や海に出て水の末
枯芦や海に出て水の末
枯芦や海に出て水の末

枯蓮　枯芦や海に出て水の末
枯芦や海に出て水の末
枯芦や海に出て水の末
枯芦や海に出て水の末
枯芦や海に出て水の末
枯芦や海に出て水の末
枯芦や海に出て水の末
枯芦や海に出て水の末
枯芦や海に出て水の末
枯芦や海に出て水の末

枯蔓　枯芦や海に出て水の末
枯芦や海に出て水の末
枯芦や海に出て水の末
枯芦や海に出て水の末
枯芦や海に出て水の末
枯芦や海に出て水の末
枯芦や海に出て水の末
枯芦や海に出て水の末
枯芦や海に出て水の末
枯芦や海に出て水の末

枯蔦
枯躑躅
石蕗花

枯菊

麥時

大根曳

黒塚屋手にもちて妻菊畑から　松秀
生でよ草に大根乃り大根引　無人
飢憐んで葉ぬけり大根引　家做　一甫
恒枝に音ありて大根曳　寸松
畑中や大根探る烏帽子哉　梓菜
出かけ肩に戻るや大根曳　嵩之
村長が見て子の日や大根引　仝
春の十振るより大根引　ふたき翁
船嵜の日より滴人乳大根曳　和琴
手近くは淡へ廻して大根引　一雅
仲間を振りて見る大根引　一楼

釣干菜

船頭を引て来て大根曳　菅兄
娘より婦の笑ふや大根引　夕山
二本をよそに出て大根がへ　松秀
二振ともなし背負ふ大根がへ　丸琴
後向く旅見るや大根引　吟鹿
ちらちらと男々して大根曳　一甫
堺の番に蔓籠の大根も曳絶へ　五晄
引抜く半や大根の引残り　丁杏
晩くなる暮るる音して釣干菜　陶娟
上開くまでは庵の釣干し哉　松雫
飛脚宿の小窓の粋り干菜哉　穂峯

冬木立

[illegible]

枯野

[illegible]

芝蘭
松秀
之主
孔丘
[illegible]
対五
[illegible]付
耕雲
西阜
羽人
[illegible]

白雪の昇るかと見る柘榴哉　永井
柳も雪を柘榴と知らるる二月哉　古穿
出て柳も咲る柘榴の花哉　高安
咲る花の心を解るる花哉　市摩
咲るとも雪山の陰を雪の陰　一摩
山吹の枝細き実柘榴の柳　文淵
藻の横雪ふる柘榴うれ　陽光
来ると見れば柘榴の花ぞ　古陸
舟着て咲て居る柘榴哉　芙蓉
義経の前の柳の柳哉　鳴角
出窓に来る山ふる柘榴哉　高乙

柘榴に一日くれる柘榴哉　耕雪安
茶の花の咲る柘榴哉　一之
咲て見れば柘榴哉　右直
柘榴に出て咲る花の哉　雀雪
山形に来る柘榴哉　名俊
雪の柳に有る柘榴哉　一甫
董咲て牛に乗て柘榴哉　名村
柘榴の形　素太
柘榴に絶頂に咲て一花の哉　尊雨
茨の来て咲る柘榴哉　五水
鼠穴の立ぬる柘榴哉　茅丸
咲る花屋に柘榴の看美　花父

冬野

冬枯

[illegible]

菓氏
雅因
碧浦
惟孝
[illegible]
其北
棟海
松宇
四富
古橋
[illegible]

鱈

河豚

[illegible]

和琴
[illegible]
二丘
一甫
[illegible]
仝
[illegible]化
子弦
竹王
[illegible]
棟海

一雉
夕山
雪象
雪付
文鬼
巨壺
松金
川丈
ちゑ
茅野
生巣

生海鼠

水鳥

友之
芦脈
一竹
邑角
松平
乙水
惟孝
汀九
素志
節之
素雪

笑盧
羽人
玉水
宗機
子之
遠海
丁知
丈在
生安
芦盧
西女

浮寮鳥

鴨

芦帆
西古
寄序
珍菓
丁宗
家付
文光
め仏
万里
白昭
湖

鴨鴨たちんとそなたの海の外　氷谷

鴨ちりぬべき面影の水に浮かぶ　名法一　南

鴨の巣もあらの浦の波の色　太橋

星もうつれば打ちうつる鴨の声　五歩

うきぬなはの根をもとめて鴨の声　キ山

一概に日の出ぬ鴨の声　素秀

鴨の声やすくなりぬる木の葉市　蕪子

蕪の花松樹の鴨の羽音かな　西戸

鴨ちりぬや塩の花五十万　芋帆

鴨ちりぬ世話しぬ宗旦鴨の声　正令

塩の良き森山や鴨の声　全

押合ひて鴨の声

鴨ちりぬ木の新出来て鴨の声　吟良

出羽国の鴨ちりぬ木の新出来　五竹

代官の鴨ちりぬ木の新出来　文和

塩の新屋の鴨ちりぬ　五峨

鴨ちりぬ鴨ちりぬ　一毛

鴨ちりぬ鴨ちりぬ　玄〻

鴨ちりぬ鴨ちりぬ　節之

鴨子市や一駄売り鴨の声　四葉

鴨ちりぬ鴨ちりぬ　尚古

鴨ちりぬ鴨ちりぬ　史子

鴨ちりぬ鴨ちりぬ　為乙

小鴨

あちどり
千鳥

双之
水蓮
五味
一水
山椒
胡麻
伯丈
松菓
牡蠣
栗笑
芦帆

今
扎
一
面
稲
不上
考佳
角山
正今
尚古
文和
今

上巻

玄仙
五嶽
大槎
玄〻
帝庫
自
琴笠
槎海
竹岫
琴示
水

家飛
李朗
尼陸
川丈
長青
木田
菜徑
大梅
菜民
雅用
吉風

東京

[illegible]

一面　月峨

[illegible]　雅

[illegible]　左

史子

[illegible]

[illegible]

杜年

[illegible]谷

仝

鷺鷥

鵜鶘

四幅

[illegible]

木琛

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一具

[illegible]水

仝

植稲も帝の恵みつかはるゝ　横海

つかはるゝ咽や寒き夜の月　菜種

鵜飼あらし暮を行帝の後　乙光

みゆるゝ所見へ暮す雲の上　仝

鵜予思ひ出し小倉やつかはるゝ　川丈

以来ても世語し来秋文の鵜飼　旭丘

春の月夜ても出来しつかはるゝ　雄花

つかはるゝ鵜のや遊の鵜ると記　最手

今日の夜も月の夜も明ぬ鵜飼かな　秀泚

彼より往の鵜も善なる鵜飼　愚山

出来まつて舟の出ぬ夜やつかはるゝ　菜静

夜興引

紫漬

網代守

鮒ならば半ば来らぬ鵜飼　芳琳

登り来ても先つかはるゝ　木公

夕暮や一人さらんのみつかはるゝ　乙貴

夜興引やひ見の峯の雲　一甫

紫漬の朝も深さや月夜　布席　第一秀

紫漬や女の袴の立廻し　一具

秋の新夜庵中待気網代守　竹子

とし寄と思ふ子出遊あし網代守　楽水

網代守る首へうちや松の風　菜雅

世の中は人と人ん同じ網代守　不流

呼ぶより鳥まで寄る網代守　高安

十一月
霜月

冬之部十

山里や十一月孔雀古笛　南安
霜月や鶏の鳴き初め　青池
霜月や星の光り凩の音　名妓一南
霜月や極月ちかき梅の蕾　万里
霜月や曲星のつる程の枝　布席
霜月や只俤のゆく山寺　一楼
木の実うつる霜月山のうら移り　碧浦
霜月や旭の到る小田の雀　莫水

冬至

十一月

○九九

髪置

袴着

貝見世

子祭

子燈心

冬

吹草祭
御講
里神樂
鉢扣

ちりぬるや吹草祭の來る夜し　芳井
あなかしこ旅や御講に隙あらく　梅海
笠締や御講日和の梅のはじ　一竜
御剣の旗をぬきよし里神楽　南女
篝火の一人有打神楽　楽天
生涯を呑ぬけゆく鉢扣　松和
明星や後にさがりし鉢たゝき　川右
宮の前ゆかしくなりぬ鉢扣　不曲
來る夜ハ待つにも似ぬ鉢たゝき　易年
後遠く出て其家の観念鉢扣　南女
霰や菊あひし寺の鉢たゝき　市摩

出て遊ぶしく來ぬ鉢扣　久藏
京の町や今宵るの鉢たゝき　一具
木枯の中に数多く鉢扣　雅菓
四月に声する人なし鉢たゝき　松橋
鉢たゝきなぶ寺に雪は茶籠しし　茶帆
東あるりの寺と來ぬりある鉢扣　此李
鉢扣月に行かるゝ宵の程　木司
西日の隣にも明り鉢扣　南女
急來や月に尽くさず鉢たゝき　友之
人夜の中に寄る鉢扣　杏樂
霰ぞ遠き火のあり鉢たゝき　寛里

月冴

冬月

赤蕪　蕪丘
楽三　涼谷
四葉　全
李朝　如旭
全　彼丈
全

雄蕨　横海
鳴湖　孟安
無秋　寸兵
涼谷　文湖
山雄　梨庵
白起

夕山
素白
戴星
竹蓑
一具
文光
名村
一斉
五峨
仝
大棟

木枯

素太
雨打
乗水
李朗
文鬼
長壱
陶鋼
量山
不流
古学
粗年

本誹

菓氏
仝
大費
庚辛
一具
寸孔
文鮒
碧潭
青く
莊水
呂水

雪

冬

山笑
素白
古川
竹林
百人
松付
冷庵
の布
二丘
大梅
一笠

上野

瓶を出て生けるが如し雪の魚　集政
巻もせず十日あまりに庭の松の雪　学井
松の雪一枝はらふに庭よりも　文光
枝をれんおとしてや又雪の音　路丈
又使もちらして掃くつの雪　古学
煙寮も雪ふりつもりし朝　花古
神代より風情も見ゆや雪の朝　雅成
障子の戸口に積るも雨ぞふる　蓮丘
松ヶ枝の雪落かかる日の梅る　棣々
生花さき背中の雪を掃ひ皃　二晶
枝の雪崩し難なり燈の前　貞樫

冬

ちらちらと残らぬ雪の揺る夜かな　不曲
波音の治りくしく松の雪　不倫
工夫して拾ふやと払ふや紫の雪　龍化
菓拾ふ音や雪をふく一つの口　烟雪
生て掃くもなしや雪の庭　古学
雪の日や出て行く子の青き鞍　華母
折られて見ゆる小雪の古の四　野納
神の雪戸を立ててくらく掃き清め　仝
障子子滅紫を借る雪の庭　無妹
鳴も静く口梅に生る浮雪かな　仝
襟巻て今朝も掃くり墓の雪　大貴

仝　杜年
仝　一面
松竹
遊仙
月城
岩堂
丁寿
史子
一重

浅南
相面
菜藤
世菜
仝
寸兵
鈴業
仝
二重
京谷
子鈴

雪葉　文徳
高砂　芳谷
四時　仝
碧浦　抱琴
赤松　松巣
杜賛

白起　何年
荷了　耕雲
松竹　松月
芦洲　芦直
木梁　仝
桂秀

ちよろ〳〵と千鳥なき渡りつの雪
行くえなしに岸にくれ松の雪
雪の戸を押やけぬれば雪降て
雪の日孔雀つゝ雪の中
横河を車にくるゝ雪の
修験の姿物さびや雪の
一群よ小夜の雪の
秋果の雪庵有桂竹通る
雪の日の鶴〳〵も雪ふり
雪山の雪元にくるゝ瀑の音
滝の雪掃〳〵来やゆ吾美し

一之
仝
蓑水
思文
古川
芝葉
一竹
芭角
雷示
石能
友之

冬

一鶴にて日の暮ふり雪元莊
雪降やくるる雪の丘の中
燈出〳〵の船くるる雪の舟
大雪ふり昨日来ふり出る郭
雪降や屋のうち朱稲荷様
雪中よ雪に雪の俳諧
雪雪ふ雪の俳ふり雪の
横〳〵くる辻行燈や秋の雪
面掛を穂ふり雪降や蓑の雪
ふりふり来横雪ふり雪の石
笠雪雪に出笠雪〳〵雪の松

仝
丈二
朱公
仝
高安
二丘
仝
仝
五呪
仝
不表

雪降や家の子等の小菜畑　宇雪
雪掃ひく〳〵雪のあらはれぬ　如芝
雪の日や二階の角の桐箱　自家
雪半ば降りつゝ野の雪　雨直
雪の日の蓑着て来る舎人　五竹
雪の蓑蓑の外や油売　下総　一甫
雪降るや時次雪の俳人　一陽
雪の蓑蓑く〳〵蓑つゝ　乙青
御解を出せしなる俳雪　丸峨
雪掃の蓑を蓑形蓑の形　仝
白雪や雪の降るく俳雪　仝

降雪や地蔵菩薩　東樵
蓑つゝ蓑の蓑掃雪の蓑　去く
蓑蓑や蓑も掃く蓑の蓑　雪蓑人
蓑の蓑蓑の蓑の蓑の蓑　蓑岩
蓑蓑の蓑の蓑の蓑の蓑　素山
蓑の蓑の蓑の蓑の蓑　芽谷
蓑蓑の蓑の蓑の蓑の蓑　秋堂
蓑蓑の蓑の蓑の蓑の蓑　節々
降雪の雪の上を降雪　仝
降雪の雪の雪の蓑蓑菩薩　多安
降雪の雪の雪の降雪の降雪　仝
降雪の雪の降雪の降雪の降雪

汚れたる雪を隠してけさの雪　多よ女

乾鮭の声も細りて雪の朝　布席

雪折に分けて出家の角　仝

鶏々猫雪も降さぬ雀の形　鷹く

落葉もえし雪は降けり葉独　大梅

雪ふけに雪も持柿の一蔕の形　四筆

焼柿も柿手の雪を殖けり　仝

鴻も龍亀も浮ぬる雪の浮　竹山

名ひ合も我の家や雪見哉　双二

吹雪の降る音も吹や雪の家　赤龍

大寺に海しを降や船の雪　文鬼

多紀雪

雪ころかし

雪吹

家も世に出さぬ様の衣雪の降　涼谷

雨に積もる雪の形を得々端塔　眉蕉

よそもきて見よし梅に多紀雪　南濤

寂しく桜も雪や雪ころし　大挙

右と見れは雪に見て雪風の香　古翠

猶しれても上雪吹て雪吹ば　五峴

様も雪道りの浮れ家の雪吹や　仝

雪吹也渡子の切立の日御しば　仝

雪舟見の御倉さる雪吹ば　乳石

津ん出して多抜子雪吹の化　蒔乙

村継の人足去るる雪吹の家　桂芽女

雪見

雪佛

大梅　二昌　義峯　星山　一茜　自悅　松巢　一石　自悅　英山　玉葉

雪九メ

雪垣

雪車

五臺　只交　尤琴　守雪　篠山　古峯　五悅　古夷　文菴　湖月　栄

技

氷

大梅　小園　紫棠
香象　胡人　仙
仙　仝
玉水
不休
蓮華
天蓬
吟霞
一慧

俊陽　小園　紫棠
蓬萊　仙
蓬萊　天蓬
蓬萊　文来
蓬萊　蓬萊

文鬼
松自
一之
夕山
玄子
仝
古琴
木谷
今高
丈二
尚古

鐘
氷
柱

霰

仝
一趣
素志
雅因
好二
題栄
瓶乙
古琴
石水
星山
谷横

谷川や鶯しぼる玉露
梅止の藤よりこぼるる雨もがな
猫の利安の自傳や元あそび
戸ばれ蓑るとてもゆ蓑
蓑梅やはつ乳ばるよりと蓑
鶏や蓑梅しく梅の上
生の梅ちぬ蓑ばるれば
ゆ梅く梅ちまとあ毛ば
祝傳の玉屋ばる蓑の乳
ゆを蓑ばれ蓑の鶏るばれば
大梅ち蓑傳也出ばれ

古蓑
茅乳
蓑生
久藏
無條
野巣
一具
巣鶏
杜年
文爲
休圓

實

梅の形て見ぬ切安蓑ち蓑
蓑てもたちち蓑を舟の中
とれさしも考ちちち蓑の蓑
米蓑の戸口ふさぐ蓑れば
梅一半しも人は舟のはち梅ば
松蓑の強綱ちちく蓑ち乳
押廻る人皆舟のち乳ば
弦蓑のちちはちち實傳
松蓑く蓑を梅ち蓑乳
ち乳ちち切蓑梅ち人ちち
舞ちして實止ちち蓑ち

蓑石
磐浦
玄蓑
五蓑
乙蓑
迦蓑
蓑翼
蓑傳
蓑作
蓑く
蓑帆

冬

雨

巨燒

一金丸石　一竹子　一鶴自　一点燒　一松帝　一甫　一田善　一九陸　一古望　一様

物ものの名石燒

信義の御五ものの名石燒

加藤川ものの名石燒

山崎ものの名石燒

備前ものの名石燒

森物ものの名石燒

掛ものの名石燒

海老麦の物の名石燒

性西ものの名石燒

京ものの名石燒

能登屋の茶ものの名石燒

一金　一久藏　一物栄　一徐侯　一具　一小圓　一栄物　一丸石　一形　一双二

世上ノ家ノ火ヲ焼ケ亡ル焼
物ニシテ多ク有ル焼物ハ
ヌノ子ト祖母ノ子ト孫ノ子ノ形
ハ焼ル也焼ヲ用ル所風
孫ノ家ノ子ハ亡ル焼
ヲ子ノ子ハ当ル焼母ノ
焼ル子ハ病ノ如ク棚ノ如ク
病ル人ハ宮殿ノ焼ル
病ル人ハ宿ノ焼ル
ハ焼ル焼ノ家ノ家ノ者
世ノ家ノ焼ル

古陸
松竹
実芝
一之
仝
芦帆
玉子
五呪
仝
東方
南方安

囲炉裏

表裏一重ニ周ル囲炉裏ハ
兄弟ノ横恋ヲ争フ様ニ
当ル者ハ金ヲ亡シ
出ル者ハ家ヲ栄ル
徒ラニ梅ノ木ヲ出ル
大ル形ハ人ノ子ノ
僧侶ノ重ル者ハ
孫ノ子ヲ切ル者ハ
出ル母ノ子ハ
無女ノ横恋ル者ハ
埋ル火ハ以ツテ家祝ル

南方安
横恋
迦孫
家堀
キ山
碧浦
ア山
丈二
二丘
五呪
不曲

火鉢

埋火

榜

有水
宗機
馬湖
為安
帝廟
大業
井延
寸五
仝
為安
宗祀

西伯
松榜
左傳
笑壺
果笑
九末
旭丘
惟孝
泉石
豪堂
馬湖

夏山で来て投出した薪や榾の成り　多よ女

佛人の前に燃たる榾火かな　野巣

来客に炉ひらく也や榾の成り　一具

酒買を走して榾に向ふ多事　何来

古郷の猫の啼ても来し榾の成り　一霄

夜山へと出ても来た榾の成り　甫石

浄し榾を見ゆる程や榾の成り　文之

榾焚て榾の座ぶや菴の猫　寛生

屋ねうしく夜始る也榾火かな　五明

古根に淋く何成る榾かな　仝

榾くへや浅き細き仏の灯　素杉

炭

狭燭を投出してよる榾火かな　節之

炭の香や手みしる夜の狭く也　耕雲女

炭くさし座に炭とぼれや起し炭　羽人

よ所の夜に待して炭売とまける声　二晶

夜ふる秋や売しる炭さへおそめく　永斈

炭焼も人待にしも声起す兵　仝

よき乳の香の頼まるゝ囲ふ榾の形　雄積

炭へ出て帆を内や其里炭　一具

生くさき榾く炭くる香のく菊の庵　小園

炭焼て身もちる淋手も火切かな　千総

おきの炭よもしる荒月の榾り　井園

炭竈

川辺の樵夫と傳へ聞く所
樵くして焼よく乃ち炭の原
炭薪く豊前の彦の彦の角
ケ所も男世帯や所も炭
炭原とともに樵る炭柿の種
を移炭よ炭と炭を出炭
炭くく炭の炭の炭
炭出つ炭つ炭の炭見出
炭竈や先を平をもしくし
炭竈よ兎を移出炭を
炭竈や例ある所拙

桂秀
左野
川長
二晶
禾木
ある紀
東歌
藤水
一具
一之
芦月

炭焼

炭焼の世一竈を手多炭
背戸山や去年の焼ると焼
焼ると炭ケ炭ある去炭
炭焼の炭方切り出し竈
炭中炭の手刷白炭木の炭
ると焼の用ると炭の炭炭
手を炭ると焼ると原炭
炭竈や樵の木を炭炭俵
松炭と炭炭炭や相炭炭
張ると工夫の炭ると炭
炭原ると炭ると俵ると炭

対松
原谷
鳥林
乗水
一水
一蕙
夕山
高安
夢西
弓手
天茶

炭俵

火桶

一 具
拙巣
黙巣
荷乙
杏園
弓庵人
四兼
十羽
風毛
糸水
彩楽

冬至梅

冬梅

篠山
燈花
大蓼
文呂
緑平
芋孔
丁知
白起
昭眉
芭角
秋蛩

水仙

[illegible]

西方女　一昌
雪付　三枝
茅井　為古
葵西　不忠
菓平　西明
万里

[illegible]

為仏　氷谷
天蓼　仝
菓民
[illegible]
丁方
為女
常郎
為木女
文朱

[illegible]仙や[illegible]
[illegible]仙よ[illegible]
[illegible]仙や[illegible]
[illegible]仙や[illegible]
水仙や[illegible]
一[illegible]
[illegible]仙や[illegible]
[illegible]仙[illegible]
[illegible]仙や[illegible]
[illegible]仙や[illegible]
[illegible]

冬牡丹

[illegible]
[illegible]
[illegible]

鶯

鶯狩

鶯野

冬鳥

玉和久

鶯く

古翠

文鬼

稲雀

涼苔

素太

五明

桂菅

芦帆

涼谷

王子酒

納豆

今

柳葉

素太

水

松雪

方丈

節之

松美

呼友

友之

素来

[illegible]

○

[illegible]

[illegible]

[illegible]

臘八

衣配

事納

菜喰

芝葉
芦帆
加茂
五明
載星
宇喜
戸山
多喜
松竹
多喜
篠山

佛名會

寒入

巣平
検案
菊蓋
大拳
雨考
一甫
名村
五明
碧潮
一甫
学孤

寒雨

寒声

寒月

[illegible]

桂秀　孫谷　子彬　文海　蓬亭

一竹　一物　就化　一具　松秀　学井

寒念佛

[illegible]

食

自然と仏法の事ども
[illegible]仏
[illegible]や[illegible]の[illegible]仏
[illegible]仏法の[illegible]
[illegible]も
[illegible]仏
[illegible]の[illegible]仏
[illegible]や人の食[illegible]
[illegible]
[illegible]食
[illegible]
[illegible]
[illegible]

蒲團

足袋

頭巾

湯婆

鞦韆

寒菊

寒梅

[illegible]

[illegible]

[illegible]

冬蠅

冬山

冬日

冬田

節季假

第伍

一 甫 仝 原谷 古峯 小圃 乙壱 素丘 蓼毛 易子 秀雄

山雄 二丘 宇弘 久藏 山雄 吟庵 樣山 稜雪 一生 采水 点雄

煤掃

多安　布席　史子　古佳　宝月　春雪　西義　南山　古来　旭丘　松秀

椒竹　左義　ぬる　芽谷　枇琴　素乙　一竹　仝　五峨　一甫　写庵人

餅搗

搗手うゝ逆手すゝ餅
ゝ搗の搗よ古代や餅ゝ
餅掃の中うゝ古や木賃宿
餅搗よ古の〜安ゝ関所ゝ
海ゝ自ゝ〜旅森歴ゝ餅の書
餅作ゝ中ゝ餅の作ゝ書ゝ男
ゝ搗よ和尚ゝ搗く四合ゝ
餅つゝ作ゝ搗く餅ゝ委
搗ゝ搗く搗く運ゝ餅の竈
餅作ゝ中ゝ餅代の搗の書
古歴の書の中ゝ餅の書

菅笠
横山
素丸
四筆
永昇
平延
因幡
忠山
南海
東京
玉民
白起

歳暮

餅搗よ一年ゝ祝〜世帯ゝ
餅作ゝ中ゝ先ゝ年ゝの餅ゝ
ゝ搗ゝ中ゝ餅ゝ作ゝ世作ゝ
行後ゝ年ゝ中ゝ業書の朱俵
朱ゝ人ゝ年ゝ作ゝ書ゝ業ゝ
暦ゝ人ゝ年ゝ書ゝ業ゝ
朱ゝ人ゝ年ゝ作ゝ書ゝ

暦賣

古暦

捨賣

節分

豆打

松秀
西令
節之
南ゝ安
五呪
一具
雄嶺
南ゝ安
西考
一光
五呪

年市

年忘

年用意

年木樵

年末

年尾　年越　行年　年宵

年の尾や子二つ残して鶴の雲
年上り猶も上り鶴賜ふ
行年や行年尾の雲の雲
行年や札を張る子の行く
行年や古さのうち墨四川
年の日や人をうぬ墨の字
行年や行年の雲の雲
行年や年ゆくる雲の雲
行年や行年市の祈
行年や年の雲雲雲雲
年宵の年の年の宵

名俤
貞燈　一甫　一具
横海　恕堂　陳谷
横坊　横海　西堂
横坊　湖　宇喜

年一夜　惜年　年名殘　年別　年暮

法師の母の像の出るや一夜
日乳寄る姫孫くやもせ年
祝二人持て行とし惜こそ年
物ゆくや過ぐるもとし乳名殘
五三の嬉しくとし社年暮
死ぬるとしの八時よ年の乳
年もつるとし時乳去者
年人の蔵年過ぐるとしの暮
年ぬるこそ屋のつや年の暮
年もさや法光寺る格年暮乳
格年御の年ゆるゆ加ぬとしの年

一夜
一夜の年
年月
云く
易年
妹和
布席
妹
千鶴
枇琴
壮賛

大晦日

除夜

厄拂

掛取

岡見

李朗　南上安

寸居　九号

殖老　古陸

素志　南石

大貴　一南

五峨

春隣

春待

春近

年内立春

冬題不知

川丈　横海

松雫　玄く

ぬ遷　五竹

素志　雄嶺

挑鳩　竹岫

吏川

不流　恩雲
閑渺　一蕙
蕭水　秀色
秀也　一雅
栗笑　夕山
友之

節々　秀和
玄く　仝
柏雅
水竹
仝
玄葉
仝
甚水

[illegible] 基水
[illegible] 玄丈
[illegible] 全
[illegible] 巻西
[illegible] 全
[illegible] 乙懐
[illegible] 文呂
[illegible] 華二
[illegible] 全
[illegible] 美峰
[illegible] 石祐

[illegible] 全
[illegible] 多竹
[illegible] 全
[illegible] 志葉
[illegible] 全
[illegible] 全
[illegible] 其水
[illegible] 全
[illegible] 玄丈
[illegible] 全
[illegible] 巻西

和漢洋書籍發兌處

東京帝國大學
高等師範學校
學習院
京都帝國大學
第一高等學校
帝國圖書館
御用書肆

發行印刷者　大阪市東區博勞町四丁目廿七番地　青木恒三郎

製本發賣所　東京市日本橋通壹丁目　青木嵩山堂
　　大阪市心齋橋筋博勞町　青木嵩山堂

仝

賣捌所　勢州四日市港堅町　嵩山堂支店

佛蘭十第歩句集　全之部

和學短大　第　号　891.d　受入　昭30.9.5